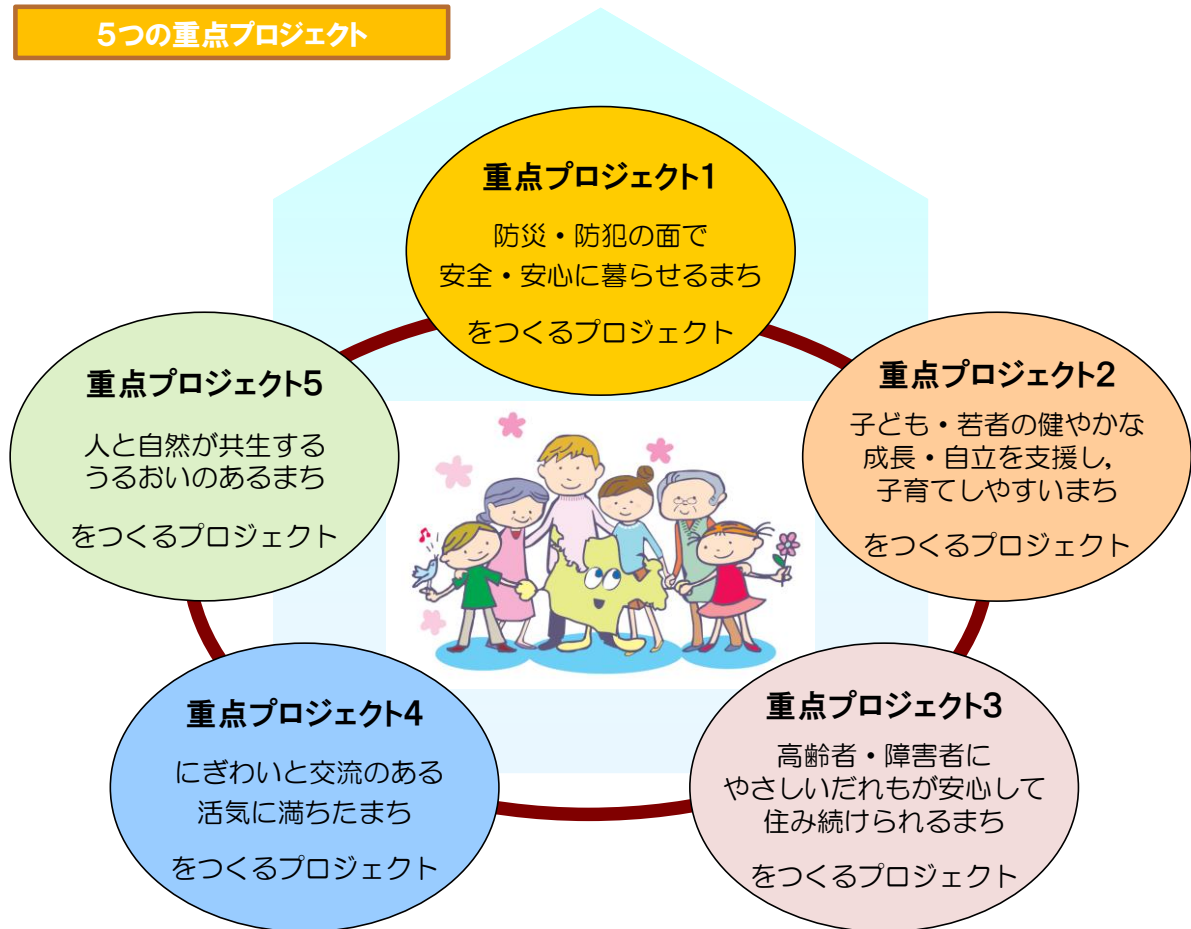


第2節 5つの重点プロジェクトの取組

まちの将来像「みんなが笑顔でつながる・ぬくもりと輝きのまち調布」を実現するため、次の5つの重点プロジェクトと市政経営における2つの基本的な考え方により総合的かつ計画的に推進していきます。また、2つのアクションにより、重点プロジェクトを基軸とする施策全体を効果的に推進していきます。

まちの将来像「みんなが笑顔でつながる・ぬくもりと輝きのまち調布」

5つの重点プロジェクト



2つのアクション

アクション1

横断的連携による施策の推進

重点プロジェクトをはじめとする横断的に取り組むべき主要事業や課題について、多様な主体との連携や調整の充実を図りながら取組を進める

アクション2

調布のまちの魅力発信

調布のまちの魅力を高め、その魅力を多様な媒体を活用し市内外に積極的に発信するとともに、市民の調布のまちに対する愛着と誇りを高め、重点プロジェクトを基軸とした施策の推進、都市としての付加価値の向上につなげる

市政経営の2つの基本的考え方

参加と協働のまちづくり

～人と人がつながる市民が主役のまち～

持続可能な市政経営

～質の高い行政サービスの提供～

重点プロジェクト1 防災・防犯の面で安全・安心に暮らせるまちをつくるプロジェクト

目指すまちの姿

○自助・共助・公助の基本的な考え方の下、地域や関係機関等との協働による地域の防災体制づくりや、犯罪が発生しにくい環境整備により地域の防災・防犯力の向上が図られています。

- ・近年の地震や風水害、過去の教訓を踏まえ、自助・共助・公助の基本的考え方の下、ソフト・ハード両面から防災・減災対策が進められています。
- ・地域に根差した防災活動の主体となる防災市民組織が市内各地域で組織され、自助の意識の一層の醸成が図られています。
- ・市民が安全に安心して暮らせるよう、犯罪の起こりにくい環境づくりが進んでいます。



○延焼遮断帯の形成、緊急輸送道路の機能確保、住宅の耐震化、下水道の耐震化など、市民が安心して暮らすことができる災害に強い都市基盤づくりが進んでいます。

- ・特定緊急輸送道路の沿道建築物の耐震化が進み、震災時の復旧・復興の大動脈となる輸送機能の確保が図られています。
- ・下水道施設の耐震化や老朽化した管路の機能維持、更新などにより災害時の安全性の確保が図られています。



2022(平成34)年度の到達点

指標	基準値	目標値
調布市の地震などの災害対策に満足している市民の割合	61.4% (2017(平成29)年度)	➔
治安の面で自分の住んでいる地域が安心して暮らせると感じている市民の割合	84.8% (2017(平成29)年度)	➔

重点プロジェクト事業 (11事業)

～ 地域の防災・防犯力を高める ～

- 防災市民組織の育成
- 調布市避難行動要支援者避難支援プランの推進
- 防災備蓄品の確保・充実
- 災害情報システムの維持管理・充実
- 消防水利の整備・維持管理
- 消防団の対応能力の向上
- 命の教育活動の推進(「調布市防災教育の日」)
- 犯罪抑止対策の推進

～ 災害に強い都市基盤をつくる ～

- 特定緊急輸送道路沿道建築物耐震化促進事業
- 住宅の耐震化の促進
- 下水道施設の機能維持

重点プロジェクト2 子ども・若者の健やかな成長・自立を支援し、子育てしやすいまちをつくるプロジェクト

目指すまちの姿

○安心して子どもを産み育てられる環境づくりが進んでいます。

- 多様なニーズに対応した保育サービスが提供されるとともに、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援の充実が図られています。



○すべての子どもが健やかに成長するとともに、すべての若者が社会の一員としての自覚と責任を持って生活しています。

- 子ども・若者をめぐる複雑化・深刻化する諸問題の解決につなげていく体制づくりが進んでいます。

○次代を担うすべての子どもたちが夢を持って健やかに育っています。

- 良好な学習環境が整備され、子どもたちが、基礎的な学力や社会性、体力を身に付けながら、主体的に考え、生きる力を育むための機会が提供されています。



2022(平成34)年度の到達点

指標	基準値	目標値
子育て支援サービスに満足している市民の割合	50.6% (2017(平成29)年度)	➔
就労などの面で困難をかかえる若者への支援に満足している市民の割合	44.6% (2017(平成29)年度)	➔
小・中学校の教育に満足している市民の割合	55.6% (2017(平成29)年度)	➔

重点プロジェクト事業（7事業）

～子育て環境を充実させる～

- 待機児童対策の推進
- 学童クラブ施設の整備
- 出産・子育て応援事業

～子ども・若者の健やかな成長と自立を支える～

- 子ども・若者への支援

～学校教育を充実させる～

- 小・中学校施設の整備
- 地域人材等を活用した教育の充実
- 特別支援教育の推進

重点プロジェクト3 高齢者・障害者にやさしい 誰もが安心して住み続けられるまちをつくるプロジェクト

目指すまちの姿

○高齢者が、住み慣れた地域で安心して生きがいをもって暮らすことができるよう、高齢者を支える取組が進んでいます。

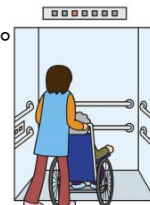
- 高齢者ができる限り住み慣れた地域での日常生活を継続できるよう、適切な医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が図られています。

○障害者が、地域で安心して自立した生活をおくれるよう、障害者を支える取組が進んでいます。

- 障害者への理解が進んでいるとともに、障害者のニーズやライフステージに応じた様々な支援体制の構築が図られています。

○地域とともに認め合い、助け合い、支え合う、地域福祉の充実が図られています。

- 地域で複合化・複雑化する様々な課題を抱える高齢者や障害者に対し、必要な支援や課題解決につなげていく体制づくりが図られています。
- 専門性を有する福祉人材が、地域住民とともに様々な福祉活動を展開しています。



2022(平成34)年度の到達点

指標	基準値	目標値
高齢者の福祉に満足している市民の割合	57.4% (2017(平成29)年度)	➔
障害者の福祉に満足している市民の割合	56.6% (2017(平成29)年度)	➔
地域福祉コーディネーターの活動件数	1万958件 (2017(平成29)年度)	➔

重点プロジェクト事業（6事業）

～高齢者の暮らしを支える～

- 地域包括支援センターの充実
- 介護予防・日常生活支援総合事業の展開

～地域福祉を進める～

- 地域福祉コーディネーター事業の推進
- 福祉人材育成事業の推進

～障害者の暮らしを支える～

- 障害者の就労支援
- 障害児（者）医療的ケア支援事業

重点プロジェクト4 にぎわいと交流のある活気に満ちたまちをつくるプロジェクト

目指すまちの姿

○利便性と快適性を兼ね備えたにぎわいと交流のある都市空間の創出，様々な都市機能の集積により魅力ある市街地が形成されています。

- 交通結節機能に加え，環境空間としての交流機能や景観形成機能などの広場空間を兼ね備えた駅前広場の整備が進められています。
- 調布・布田・国領3駅の駅前広場と各駅をつなぐ鉄道敷地の連続した空間の有効活用により，にぎわいや交流，うるおい，やすらぎのある都市空間の整備が進められています。
- 駅周辺をはじめ面的整備手法を活用した土地の有効・高度利用により，地域の特性にふさわしい都市機能の集積，計画的なまちづくりが進められています。



○まちの回遊性を高め，歩いて楽しいまちづくりが形成されているとともに，映画やスポーツなどの地域資源を生かし，まちの活性化が図られています。

- 産業振興と都市基盤の整備が一体となった魅力的な中心市街地が形成されています。
- 安全で快適な歩行者空間ネットワークの形成により，まちの回遊性の向上が図られているとともに，映画・映像関連企業との連携や，スポーツ，芸術・文化などの地域資源の活用により，まちの活性化が図られています。



映画のまち調布

2022(平成34)年度の到達点

指標	基準値	目標値
中心市街地が魅力的であると感じている市民の割合	66.1% (2017(平成29)年度)	➔
住みやすいと感じている市民の割合	92.4% (2017(平成29)年度)	➔

重点プロジェクト事業 (9事業)

～まちの活力を生み出す都市をつくる～

- 駅前広場の整備
- 道路網計画に基づく計画的な道路ネットワークの形成
- 鉄道敷地の整備
- 自転車等駐車場の整備・有料化
- 面的整備手法を活用したまちづくりの推進

～にぎわい・交流のあるまちをつくる～

- 商店街活性化の推進
- 「映画のまち調布」の推進
- 民間ノウハウを活用した中小企業等の支援
- オリンピック・パラリンピックを契機としたまちづくりの多面的効果の創出

重点プロジェクト5 人と自然が共生するうるおいのあるまちをつくるプロジェクト

目指すまちの姿

○調布の大切な財産である緑と水辺環境が守り育てられ、うるおいのあるまちが継承されています。

- 多様な主体が連携、協働して、水と緑の保全・創出や地球環境に配慮した取組が広がり、自然環境が保全された豊かな都市が形成されています。
- 調布市の貴重な地域環境資源である深大寺・佐須地域の保全・活用により、良好な自然環境や里山の景観が維持されています。
- 貴重な緑地空間としての都市農地の保全・活用が図られ、災害時における防災空間としての役割や、うるおいとやすらぎをもたらす住環境の形成など、多面的機能が確保されています。



○地域固有の景観資源の価値を市民と共有し、地区の特性を生かした景観まちづくりの取組が進められています。

- 景観法を活用した景観まちづくりの推進により、地域の特性に応じた景観のルールづくりの取組が広がり、調布らしい魅力ある景観形成が図られています。
- 調布市の代表的な観光スポットである深大寺地区は、地域との連携を図りながら、街なみ景観の維持・向上が図られ、武蔵野の自然と歴史・文化が継承された景観形成が図られています。



2022（平成34）年度の到達点

指標	基準値	目標値
緑の保全や自然環境に満足している市民の割合	68.7% (2017（平成29）年度)	➔
市内に優れた景観があると感じている市民の割合	81.3% (2017（平成29）年度)	➔

重点プロジェクト事業（7事業）

～ 豊かな水と緑を大切に守り生かす ～

- 公園・緑地，崖線樹林地の保全
- 公園・緑地等の整備
- 深大寺・佐須地域の里山，水辺環境の保全・活用
- 都市農地保全支援プロジェクト

～ 良好な景観を創出する ～

- 景観計画・景観条例の運用
- 公共サイン計画の検討・運用
- 深大寺地区におけるまちづくりの推進